

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

農業教育の持つポテンシャルを最大限に活かし、生徒一人ひとりの夢をカタチにできる、“感動とトキメキの学園”をめざす。

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力などを身に付けさせ、主体的に学習に取り組む態度を育む。
- 2 生命と人権、自然と環境を大切にする態度を育むとともに、自らを律することができる規律・規範を身に付けさせ、心身の健やかな成長を支援する。
- 3 豊かな勤労観や職業観を身に付けさせ、将来の夢や目標を形作り、進路を自ら選択・決定する力を育むとともに、農業の担い手や関連産業で活躍できる人材を育成する。
- 4 様々な機関等と連携した広がりのある教育の構築により、学校の有する施設・設備や生徒の活動成果等を府民に還元するなど、農業教育のセンター的機能を果たす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路保障

(1) 個に応じた『わかる!』『できる!』が実感できる授業を実践する。

☆国、数、英で導入する少人数展開授業を効果的に活用し、わかる授業を実践する。

※学校教育自己診断(生徒)で「少人数展開授業は授業内容の理解に効果的」(R01:79%、R02:83%、R03:88.7%)を前年度比で増加させる。

令和6年度には、85%以上を維持する。

(2) 自主的に学ぶ態度や習慣を身に付けさせ、生徒一人一人が「学ぼうとする意欲」を醸成し、「学ぶ力」の定着につなげる。

☆予習・復習など、授業以外の学習を充実させる。また、資格取得を推進し、学ぶ意欲につなげる。

※授業アンケートで「必要な予習や復習ができていない」(R01:2.98、R02:2.94、R03:3.02)の平均値3.0以上をめざす。令和6年度にも維持できている。

(3) 生徒の基礎・基本の学力を定着させる。

☆「高校生のための学びの基礎診断」を導入し、その結果を効果的に活用することで基礎学力の定着・学習意欲の喚起を図る。

(4) 日本の「生命総合産業を支える人材育成」のためのキャリアガイダンス機能の充実を図り、個々の進路実現を支援する。

○学校紹介就職100%、生命総合産業への就職者数、国公立大学を含めた生命総合関連学部、専門学校への進学者数を1割以上増加させる。

※農業関連企業への就職者数(R01:20名、R02:24名、R03:18名)、農業関連学部への進学者数(R01:20名、R02:23名、R03:34名、)

2 農業教育を基盤としたチャレンジ精神豊かな「地域創生ジェネラリスト」の育成

(1) SDGsを意識し、身の回りの課題解決のため農業クラブのプロジェクト活動等を通じ、社会に参画し貢献する意識を醸成する。

○地域課題解決をテーマとした農業クラブ活動を実施し、生徒の意欲を高める。

※学校農業クラブの各大会での上位入賞をめざす。

○アグリマイスター顕彰制度を活用するとともに、進学・就職等の進路実現に生かせる資格取得を推進する。

※アグリマイスター認定者の前年度比増をめざす。

○GAP(農業生産工程管理)教育を推進し、生産物の高付加価値化により「農芸高校ブランド」を創出する。

☆地域・企業・大学・農政等のリソースを活用し、農芸高校ブランドを拡充する。

※令和6年度に新たな「農芸高校ブランド」を創出するとともに、農業の6次産業化を推進する。

(2) チャレンジ精神豊かな「地域創生ジェネラリスト」を育成する。

☆新たな評価方法(3観点別学習状況評価)も効果的に活用し、フィードバックを通して、育成を図る。

3 規律・規範の確立と豊かな心の育成

(1) 自らを律することのできる規律や規範意識、また自らの行動をコントロールできる力を身に付けさせる。

○教職員が一丸となり欠席、遅刻、服装、頭髪、登下校時のマナーなどの指導を徹底する。

(2) 職員の人権意識、カウンセリングスキルを向上させ、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導を徹底する。

☆いじめ、教育相談や支援教育に係る職員研修を行い、教育相談及び支援教育について組織体制の運用を進める。

○生徒実態調査結果を分析し、生徒指導全般に活用するとともに一人一人の生徒に寄り添い、安心・安全な居場所として、学校生活への定着を図る。

4 能動的な学校運営体制の確立と教職員の資質向上

(1) 「授業アンケート(生徒による評価)」などを活用し、振り返ることで教員の授業研究・授業力向上を図る。

○「授業アンケート」結果や教員相互の授業見学により、各教科で組織的な授業研究・改善を図る。

(2) 臨時休業への対応、自らの働き方の見直しによる長時間労働の防止に向けて、効率的、組織的に取り組む。

☆毎週水曜日を定時退庁日とし、長時間勤務を減らすべく各自が働き方を見直す。

○学習支援クラウドサービス、校内ネットワーク、校務処理システムを効率的かつ有効に活用する。

(3) 学校を取り巻く様々な課題を把握し、校内研修で教員の資質向上を図り、RPDCAを定着させ、課題に対応できる組織を構築する。

○本校が直面する課題の解決に向け、教職員向け研修、学外施設見学等を実施し、資質向上を図る。

5 地域の農業高校としての広がりのある教育の展開と情報発信

(1) オール大阪の農業教育ネットワーク(行政(環境農林関連)、大学、企業、農家、農事法人、教委等)の活用を進める。

○学校資産を活用し、地域と交流し、生産物販売、見学受入、イベント参加協力等の学校内外での学びにより、生徒の自己有用感を育成する。

※対外的な交流の機会を可能な限り模索する。

(2) 府民、地域、中学校等へ農芸高校の魅力を積極的に発信する。

○中学校訪問や体験入学会、学校説明会、学校HPの随時更新、報道提供等により農芸高校の魅力を発信する。

※将来、本校を志望する小学生、中学生等へ本校の魅力を提供する機会を設ける。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学校教育自己診断結果まとめ】 【生徒】 肯定率が全体的に高い。 ○高い項目 ・高校生活全般 90.6%、保健指導 92%、人権学習 93%、1人1台端末の利用</p>	<p>【第1回 令和4年7月15日(金)】 ○学校経営計画と学校評価 ・生徒や先生が、本校の生徒たちにうさぎの飼い方を丁寧に教えてくれた。こどもたちも大変よろこんでいた。 ・専門的知識や技術、経験をもっている農業の先生に農業科のある学校で教鞭を</p>

<p>93%など</p> <p>○比較的低い項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動 81%、その他（地域交流）77% など。 <p>農業クラブ活動が放課後に行われていることもあり、生徒会活動が学年進行とともに加入率が下降していく傾向にある。1年生は地域交流が少ないが、学年進行で上昇している。</p> <p>【保護者】</p> <p>○高い項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全般 90%、保健指導 92%、人権学習 91%、情報提供 87% など <p>○低い項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動 76% 施設設備 82% <p>全体的に 80%以上の高い肯定率であり、より良い評価をいただいている。全体的に今後も高い数値が維持できるよう取り組んでいく。</p> <p>【教員】</p> <p>○高い項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導 93%、保健活動 93%、学習指導 90%、など <p>○低い項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修 62%、施設設備 70%、指導体制等 68% など <p>生徒・保護者と比較して肯定率が低い。生徒への指導に関する項目は比較的高いものが多いが、学校での体制に関する項目は低い傾向にある。日常の情報交換などが円滑になされるよう、働き方改革の観点からも改善が必要である。</p>	<p>とってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働について対人的な部分は難しいところはあるが、ペーパーレスなど業務の効率化は有効である。 ・魅力の情報発信について。本校も同じ悩みを抱えている。どういうところを PR ポイントとしているのか教えてほしい。 ・生徒さんのイキイキとしている姿が印象的であった。あの姿をみると農芸高校の魅力が伝わると感じた。 ・農芸高校で製造している加工品等をもっと知ってもらえたら希望者も増えるのではないかと。 ・生徒はバスから自転車通学に通学経路を変更している。バスの本数が少ないので増便の要望をして欲しい <p>○教科書採択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に意見なし <p>○アンケート結果</p> <p>○その他</p> <p>【第2回 令和4年12月9日（金）】</p> <p>○スクールミッション・スクールポリシーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に意見なし <p>○授業アンケート（第1回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学のポイントが少し低い。苦手だったとしても授業の工夫することで、興味が高まるのではないかと。 <p>○学校経営計画及び今年度の活動状況（進捗状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生法などの理由により企業や施設と連携しなければ販売が難しいことが分かった。企業とのコラボがあればまた教えてほしい。 ・就職や進学でのコロナの影響はどうだったのか。地域との連携の中で、美原商店街の活性化に向けての取り組みについて教えて欲しい。 ・専門学校を卒業して、就職に資格がいるために進学する生徒はどのような学校に行っているのか。 ・農芸高校の進路指導を本校でも面接指導やレポートの指導の参考にさせて頂く。 <p>【第3回 令和5年2月13日（金）】</p> <p>○授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に評価は高い、質問項目1「授業内容について、必要な予習や復習ができていない。」について他と比べて低い、レポートなどを多く実施しているが、アンケート項目とリンクしていないので、自己診断などで検証してもいいのではないかと。 <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒も保護者も教員も設備面において評価が低くなっている。 ・生徒の問題行動に対して組織的にうごけていないと感じている教員がある。 ・働き方改革もしてほしい。とくに先生方が働きやすい環境づくりをしていていただきたい。それが生徒の安心感にもつながると思う。 ・廊下に傷をつけて凹凸をつけて、すべらないようにするなど、お金のかからない形で対応できることからしていただきたい。 <p>○令和5年度学校経営計画及び令和4年度学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美原区の広報として美原の魅力を発信してほしい。一緒に美原区を盛り上げていきたい。 <p>○今年度の農芸高校の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農芸高校の苦労や内情がわかった。農芸高校は技術系の学校として外部の方々との交流で人間形成を図ることが農芸高校の魅力の一つとなっている。 ・アンケートをもとに、振り返りや対策をたてられていて凄いなと思った。少子化の中で学校を続けていくことはとても大変で、その中で魅力を発信する姿が大切なので、ぜひ美原区と連携して欲しい。 ・保護者の研修を3回実施できた、先生方の協力があってこそ、これからも協力してやって欲しい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と進路保障	<p>(1)個に応じた『わかる！』『できる！』が実感できる授業を実践する。</p> <p>(2)自主的に学ぶ態度や習慣を身に付けさせ、生徒一人ひとりの「学ぶ力」を育成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 国、数、英で導入する少人数展開授業や大学進学希望者向けの科目について、常に検証し指導方法等の改善を図る。</p> <p>イ 学年を中心に考査前の放課後補習を定着させる</p> <p>(2)</p> <p>ア 各教科で宿題や課題を課すなど、授業以外の学習を習慣化させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・受講する生徒の授業満足度 80%以上を維持。[88.7%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断（生徒）「授業（座学）は分かりやすく楽しい」の肯定率を前年度程度に維持する。[92.7%] <p>イ 成績不振者等への考査前等での放課後補習を各学期で実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・授業アンケート「生徒取組1（予習・復習ができていない）」の平均値 3.0以上をめざす。[3.02]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中等における進学希望者向け講習会を実施する。 	<p>(1)</p> <p>ア・受講する生徒の授業満足度 80%以上を維持。(88.7%) (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生より評価方法が変更された影響もあり肯定率が低下したと思われる。自己診断（生徒）「授業（座学）は分かりやすく楽しい」(85.3%) (△) <p>イ成績不振者等には、全ての考査前に講習等の実施、課題を課すなど、継続的に指導を行うことができた。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア「予習や復習ができていない」と回答した生徒：平均値 2.97 (△)</p> <p>進路指導部の動画配信サービスチャンネルにて5月から10月にかけて国公立難関私立大学対策動画を7回配信 (◎)</p>

	<p>(3)生徒の基礎・基本の学力を定着させる。</p> <p>(4)日本の「生命総合産業を支える人材育成」のためのキャリアガイダンス機能の充実を図り、個々の進路実現を支援する。</p>	<p>イ 普通教科に関連する資格・検定（漢検、数検、英検等）の受験を勧める。</p> <p>(3) ア 「高校生のための学びの基礎診断」を導入し、基礎学力の定着・学習意欲の喚起を図る。</p> <p>(4) ア キャリア形成の視点から教育活動全体を捉え、キャリア教育計画を構築する。 イ 専門学科、進路指導部、学年、教科等が連携し、生徒の進路を保障する。</p>	<p>イ 受験者数を維持する。 [合格者 数検4名、英検15名、漢検は未受験]</p> <p>(3) ア 基礎学力の伸長につなげるため、教育産業の基礎学力調査を有効に活用する。</p> <p>(4) ア 昨年度までに構築された学校全体のキャリア教育計画を継続する。 イ 卒業時の進路決定において前年度の決定率を維持。 [就職内定率100%、農業・食品関連就職者数18名、国公立大学の農学部等34名]</p>	<p>イ合格者：数検1名 英検27名 漢検4名（○）</p> <p>(3) ア基礎学力調査を活用（生徒の変容） ・自我確立度47.6、社会性確立度54.4（50が全国平均値）と協調性が高まる ・授業理解姿勢と進路のこだわり3.7（5段階評価）と進路面が向上</p> <p>(4) ア年間進路行事計画に記されたキャリア教育計画をほぼ順調に実施し、保護者の参加についてSNSなどを活用（◎） イ就職内定率100%、農業・食品関連就職者数18名、国公立大学の農学部等31名（◎）</p>
2 農業教育を基盤とした「地域創生ジェネラリストの育成」	<p>(1)SDGsを意識し、身の回りの課題解決のため農業クラブのプロジェクト活動等を通じ、社会参画意識を醸成する</p> <p>(2)チャレンジ精神豊かな「地域創生ジェネラリスト」を育成する。</p>	<p>(1) ア 地域課題解決をテーマとした農業クラブ活動を実施し、各種コンテスト等に積極的に参加し、生徒の意欲を高める。 *コロナ禍に影響されない参加可能なものに重点をおく。</p> <p>イ すべての資格の取得状況を把握することにより、アグリマイスターの認定につなげる。 ウ 地域・企業・大学・農政等のリソースを活用し、農芸高校ブランドを拡充する。 *外部人材やオンライン等の活用も図る。</p> <p>(2) ア 育成のための学習プログラムを実施し、評価を行う。</p>	<p>(1) ア・近畿ブロック代表としてプロジェクト発表で全国大会出場をめざす。 [プロジェクト発表のⅠ類部門優秀賞] ・自己診断(生徒)「農業クラブへの意欲」肯定率90%程度を維持。 [90.0%]</p> <p>イ アグリマイスター認定者10人以上をめざす。[R03:5名、R02:6名] ウ・農芸高校ブランドをめざし生産物の高付加価値化を図る。</p> <p>(2) ア・ポートフォリオやルーブリックを活用し、生徒の学びを可視化する。 ・評価方法を検証する。</p>	<p>(1) ア近畿大会では最優秀には及ばなかったが、優秀賞を受賞し多方面で全国での賞を受賞した（○） ・近畿大会出場(R04:プロジェクト発表Ⅰ類・Ⅲ類部門優秀賞、意見発表Ⅱ類部門優秀賞)、第17回全国高校生パンコンテスト地産地消・高配合部門6位、令和4年度専門高校生徒の研究文・作文コンクール「経済同友会賞」1名、第50回毎日農業記録賞優秀賞1名 イ アグリマイスター認定者シルバー12名（○） ウ本校生徒が監修した食品メーカーの菓子において関西地域で再販された。（◎）</p> <p>(2) ア・SPH事業を昇華した課題研究・総合実習のルーブリックやチェックリストを運用し評価を実施している。 ・評価方法については、教育課程委員会において検証中（○）</p>
3 規律・規範の確立と豊かな心の育成	<p>(1)自らを律することのできる規律や規範意識、また自らの行動をコントロールできる力を身に付けさせる。</p> <p>(2)職員の人権意識、カウンセリングスキルを向上させ、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導を徹底する。</p>	<p>(1) ア 遅刻者に対する指導を徹底し、遅刻数を減少させる。</p> <p>(2) ア 教育相談や支援教育に係る校内研修を充実し、一層理解を深めて指導力を高める。 イ ①人権意識を向上させ、コロナ禍に起因するもの等、あらゆる差別を許さない教育の場とする。 ②いじめ等調査、生徒実態調査の実施結果を分析し、生徒指導全般に活用する。 ウ 一人一人の生徒に寄り添い、安心・安全な居場所として、学校生活への定着を図る。</p>	<p>(1) ア 遅刻総数前年度比10%減をめざす。 [1,453回]</p> <p>(2) ア 教育相談や支援教育に係る校内研修を2回実施[1回]</p> <p>イ①年間計画に基づく人権教育の実施及び人権教育講演会の実施。 ②いじめ等の把握と未然防止のため、府教育庁によるアンケート等を実施・活用し、実態把握に努める。 ウ・自己診断(生徒)「教育相談(カウンセリング)の体制が確立されている」の肯定率80%を維持する。 [77.3%] ・中退や不登校を未然防止し、前年度の中退率を増加させない。[0.3%]</p>	<p>(1) ア2学期までの全校生徒の遅刻回数(2,006回)(△)</p> <p>(2) ア教育相談や支援教育に係る校内研修を3回実施(◎) イ①人権教育講演会の拉致問題に関する動画の視聴、同和問題、セクシュアル・ハラスメントについての研修を実施。(○) ②いじめ等の把握と未然防止のため、アンケート等を5回実施・活用し、実態把握に努めた。(○) ウ・自己診断(生徒)「教育相談(カウンセリング)の体制が確立されている」の肯定率(83.6%)(◎) ・中退率[0.7%]。(△)</p>

<p>4</p> <p>能動的な学校運営体制の確立と教職員の資質向上</p>	<p>(1)「授業アンケート」などを活用し、振り返ることで授業研究・授業力向上を図る。</p> <p>(2)臨時休業への対応、自らの働き方の見直しによる長時間労働の防止に向けて、効率的、組織的に取り組む。</p> <p>(3)学校を取り巻く様々な課題を把握し、校内研修で教員の資質向上を図り、RPDCAを定着させ、課題に対応できる組織を構築する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 各教科で組織的な授業研究を進める。その際、「授業アンケート」結果、基礎学力の調査結果（教育産業）を活用する。（ICTの活用、ALの導入なども含む）</p> <p>イ 授業研究を推進するに際し、公開授業・相互の授業見学等も行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア 学習支援クラウドサービス、校内ネットワークや校務処理システムを効率的かつ有効に活用する。</p> <p>イ 毎週水曜日を定時退庁日とし、長時間勤務を減らすべく各教員が意識して、働き方を見直す。</p> <p>ウ 働き方改革を推進し、時間外労働を減らす取り組みを行う。</p> <p>(3)</p> <p>ア 本校が直面する課題の解決に向け、教職員向け研修、学外施設見学等を実施し、資質向上を図る。</p> <p>イ 各分掌・委員会・学年・学科ごとの取組計画を踏まえ、課題の解決を進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教科及び個人で前期より後期の評価を上げる。[-0.01]</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度程度の全体の平均値をめざす。[3.31] 自己診断(生徒)「教え方に工夫がある」の肯定率80%以上維持。[86.7%] <p>イ 初任者は年1回以上の研究授業を実施。</p> <p>(2)</p> <p>ア 資料データの共有化等による会議の効率化、省エネ化で時間短縮を図る。</p> <p>イ 長時間勤務者へのヒアリングとコーチングを管理職及び産業医が行う。</p> <p>ウ 農業科教員の働き方について時間と場所の枠を見直し、労働時間の昨年度比10%減をめざす。[前年比6.5%減]</p> <p>(3)</p> <p>ア・教職員向け研修を年間3回程度実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学外施設等と交流し、課題解決につなげる。 <p>イ 年度末に各組織の課題を明確化し、解決に向けた次年度の取組計画を作成し、学校運営協議会で示し、外部評価を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教科及び個人で前期より後期の評価を上がらなかった。(-0.02) (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度程度の全体の平均値であった。(3.30) 自己診断(生徒)「教え方に工夫がある」の肯定率(89.36%) (◎) <p>イ 初任者は年2回の研究授業を実施。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア 運営委員会および職員会議のペーパーレス化を実現した。校務処理システムの日々入力導入、出欠管理を簡便化した。(◎)</p> <p>イ 長時間労働者へのヒアリングとコーチングを実施、産業医の面談も実施することができた。(○)</p> <p>ウ 農場の働き方改革として、放課後実習の単数配置(危険な実習を除く)を試行し、1月から時間縮減に取り組んだ。前年度比較19%増(△)</p> <p>(3)</p> <p>ア・教職員向け研修を5回実施(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 同和、セクハラ、支援関係、ICT2回 大学の施設見学、食品製造関連施設、造園施設などへ派遣し教員の資質向上を行った。高校1校、中学校1校、小学校1校、小中併設校1校においてICT活用や観点別学習評価についての授業見学交流を実施し資質向上を図った。(◎) <p>イ 学校運営協議会において次年度に向けての課題・計画を提示し、経営計画や分掌の目標設定など高い評価を頂いた。(○)</p>
<p>5</p> <p>地域の農業高校としての広がりのある教育の展開と情報発信</p>	<p>(1)オール大阪の農業教育ネットワーク(行政(環境農林関連)、大学、企業、農家、農事法人、教委等)の活用を進める。</p> <p>(2)府民、地域、中学校等へ農芸高校の魅力を積極的に発信する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校資産を活用し、農業教育のセンター校として地域と交流し、食育推進、生産物販売、講習会開催、見学受入、緑化協力、イベント参加協力等を通して、生徒の自己有用感を育む。</p> <p>(2)</p> <p>ア 中学校訪問、学校説明会や体験入学会を充実するとともに、HP更新、報道提供等、積極的に広報活動を行う。</p> <p>イ 11月開催の農芸祭について、広報の充実と多数の来場者への安全性の向上、利便性等の改善を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・小・中学校等と交流し、複数回の見学受入れや講習会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域活性化のため地域のイベントに参加する。 正門周辺エリア(百年の丘、販売所)を有効活用し、府民に開放し、交流する。 自己診断(生徒)「地域交流の機会」の肯定率80%以上維持。[80.0%] <p>(2)</p> <p>ア・全教員で農芸高校の魅力と特性を伝えるべく中学校訪問を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会等を昨年度並みに実施。 生徒の輝いている一瞬を広報すべく学校HP等を活用し、行事等での様子を紹介する。 マスコミ(新聞、テレビ等)からの取材依頼(複数回)をめざし、取組みを発信する。 <p>イ 保護者の学校行事に関する満足度、農芸祭の来場者の満足度の向上をめざす。[保護者の満足度:95.9%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・幼稚園、小学校、中学校、支援学校などの見学受入れ、食育体験活動や出前授業などを実施(22回)(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門学校と合同でショッピングモールにける商品販売、地域イベントに2回参加、地域のショッピングモールでの生産物の定期的販売(◎) 生徒が企画運営する農業イベント動物ふれあい体験Agrifesを実施し約200名が来場、(○) 自己診断(生徒)「地域交流の機会」の肯定率(77.2%) (△) <p>(2)</p> <p>ア・今年度は在校生が出身中学校を訪れ学校での生活を報告に回る方法に変更し、学校のPRを行った。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度並みに学校説明会は5回、体験入学2回を実施できた。 HPによる情報発信を積極的に実施HPコンテストに連続受賞(◎)(アクセス数56,305(4/1-1/6)) メディアからの情報発信(テレビ4回放送、新聞2回掲載、雑誌3冊に掲載)(◎) <p>イ 保護者の学校行事に関する満足度はコロナの影響で体育祭は3年の保護者のみとなったが、満足度93.3%と全体的には高い水準を維持できた。(○)</p>